

仕事で使える英語力を診断する



「英語スピーキング・チャレンジ 2020年秋」 VERSANTスコア分析レポート



VERSANT 英語スピーキング・チャレンジ
——— 日本の英語を強くする ———

VERSANT の国内販売5周年記念

**英語脳に効く！
富田式スピーキング講座で学べる**

12/24 (木)まで 受付



担当講師：富田三穂氏
上智大学講師

日本経済新聞社が2020年10月からアルク社と共同で開催している「VERSANT 英語スピーキング・チャレンジ2020年秋」では最終締め切りが本日、24日となりました。すでに1,300人を超える熱心な英語学習者の皆様からの応募がありました。改めて御礼申し上げます。

世界のグローバル企業が社員の英語力把握や新卒採用などで利用する世界標準の英語スピーキングテスト「VERSANT」は国内でも金融大手を中心に導入が急速に増えています。今回のスピーキング・チャレンジは日本経済新聞社がVERSANTの国内販売5周年、累計販売30万人突破を記念した特別キャンペーンです。英語スピーキング指導で定評のある上智大学講師の富田三穂先生が監修した講座コース「英語脳に効く！富田式スピーキングトレーニング」を新たに設けました。応募者の7割の方が講座コースを申し込まれています。VERSANT2回受験料や、日経の最新ニュースを英語で聴いて学べるWebサービス「日経LissN」（3カ月利用）などを含めて販売価格は1万円と「今だけの特別価格」です。本日が最終締め切りとなります。新年から英語スピーキング力を伸ばすために役立ちますので、ぜひご応募ください。

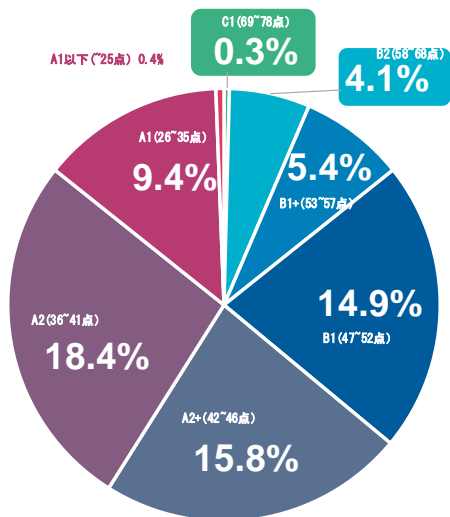
今回のレポートでは12月20日までに受験された723人（延べ人数）のスコアを第二次成績発表として分析しました。VERSANT総合スコアの平均は45.3点と、日本人平均より7点も高く、TOEIC申告スコア平均も800点を超えています。富田式の講座コースでは4月末までVERSANTの受験ができます。ぜひ、「富田式」で英語スピーキング力を高めるためのメソッドを学んでもらい、スキルアップを目指して頂きたいと思います。

日経・アルク共催スピチャレ 最新スコアサマリー

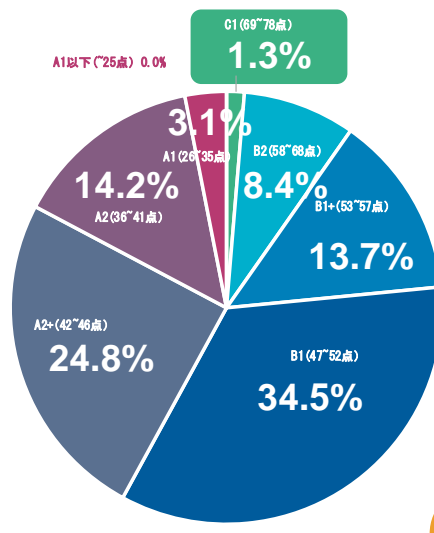
【日経・アルク共催 スピチャレ2020年秋 最新スコア分析】

- ・全体受験者（723人）の総合スコア平均は45.3点と、日本人平均（38点）を7点も上回っています。
- ・富田式講座コースの受験者（497人）の総合スコア平均は44.0点、テストコース（2回受験のみ）の受験者（226人）の総合スコア平均は48.1点だった。講座コースの方が低いが、スキルを伸ばしたい学習者が多く申し込んだことが理由とみられます。
- ・全体受験者の4スキル別スコアではリスニング力の「語彙」が50.4点と、日本人平均より10点近く高い。
- ・日本人で苦手な人が多い「流暢さ」「発音」はそれぞれ40.9点、42.9点。日本人平均より高いが、ビジネスで英語を使うにはスキルアップが欠かせません。
- ・富田式講座コースの受験者では「流暢さ」が39.5点と、テストコースの44.1点と比べて低くなっています。学習後の2回目のスコアアップを目指してください。
- ・「英語のプロ」とされるTOEIC900点台申告者の総合スコア平均は52.8点と高いです。ただ、日本のビジネスパーソンが苦手な「流暢さ」の平均は48.5点と、レベルアップが必要です。

富田式講座コースのスコア分布

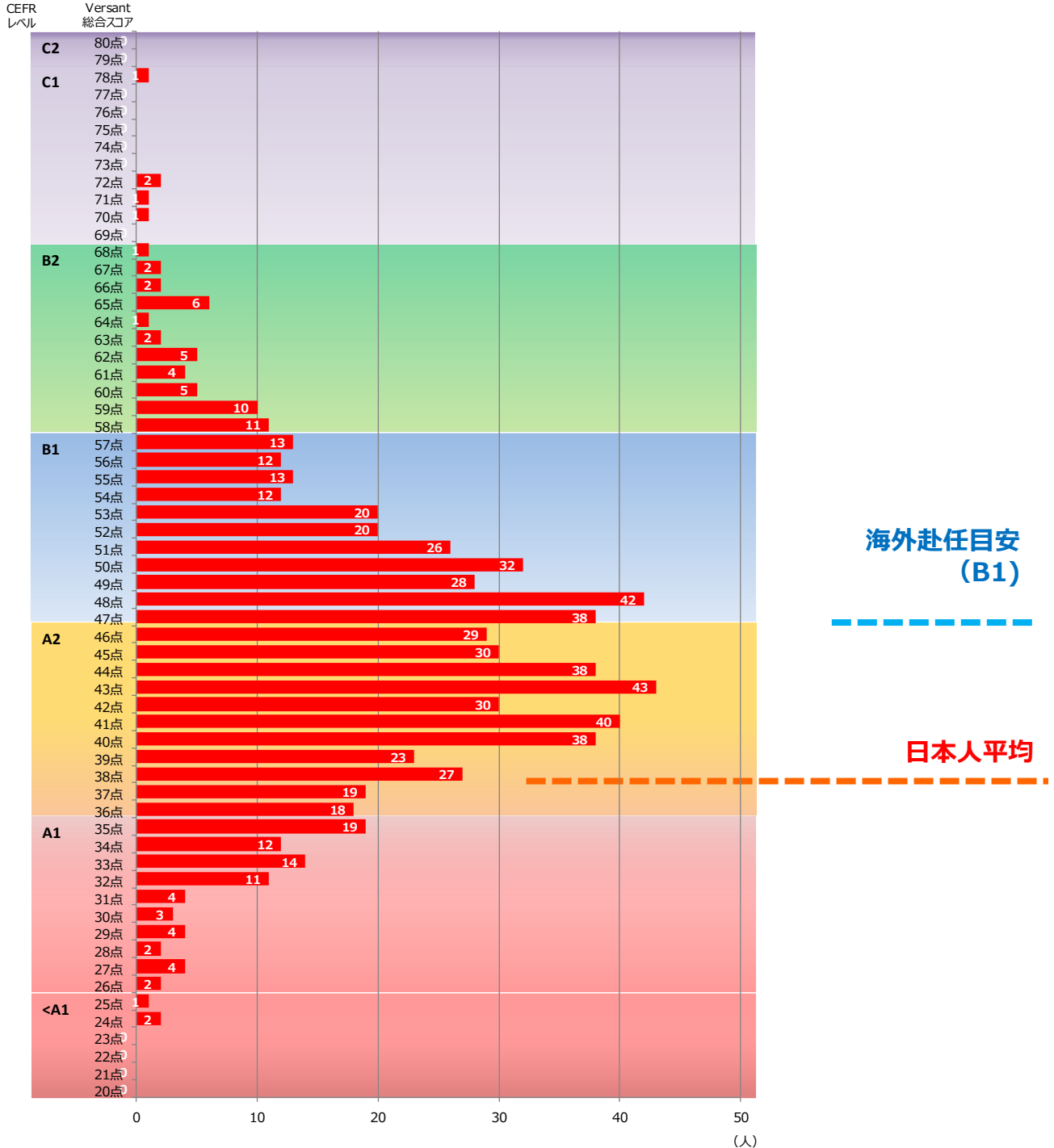


テストコースのスコア分布



日経・アルクのスピチャレ受験者のスコア別の分布 受験者の8割が日本人平均（38点）を超える！

総合スコア分布



VERSANTスコアの見方

VERSANTは世界教育出版大手の英ピアソン社が開発し、国内では日本経済新聞社が総代理店として販売しています。VERSANTスコアはピアソンが開発したグローバルな英語力の指標である「GSE（グローバル・スケール・オブ・イングリッシュ）」と関連しています。VERSANTスコアによって、GSEが詳細に規定する「英語で何ができるか」がわかります。それを参考に、スコアレベルごとのスキルを解説した簡単な表を作成しました。ご参照ください。また、VERSANTスコアでは欧州言語共通参照枠（CEFR）でもスキルレベルを分類できます。日本のビジネスパーソンとしてはやはり、まずB1（47点）以上、できればB1+（53点）以上を目指したいところです。最終的に英語を使い、ビジネスでリーダーシップを発揮するにはB2以上のスコアが求められます。VERSANTを導入する欧米のグローバル企業では英語がネイティブでない人材を採用する場合、B2が求められるケースが多いのです。



38点
日本人の
平均

※2018 ピアソン調べ

講座コース受験者の上位スコアリスト

C2 79-80	B1 47-52
C1 69-78	A2+ 41-46
B2+ 63-68	A2 36-40
B2 58-62	A1 26-35
B1 53-57	A1 20-25

講座コースで受験された中からスコアが上位だった方々のリストを掲載させて頂きました。

受験者	業種	TOEIC® スコア	VERSANT総合スコア	スキル別スコア			
				文章構文	語彙	流暢さ	発音
1番さん	情報処理、SI、ソフトウェア	980	72	69	75	73	73
2番さん	その他	970	72	80	71	63	69
3番さん	教育、学習学習支援関係	990	67	80	74	50	60
4番さん	食品、医薬、化粧品	990	66	72	77	58	61
5番さん	放送・広告・出版・マスコミ	980	66	62	67	69	64
6番さん	教育、学習学習支援関係	990	65	66	67	67	59
7番さん	その他	985	65	56	73	71	61
8番さん	教育、学習学習支援関係	970	65	63	69	71	53
9番さん	卸売・小売業・商業（商社含む）	930	65	70	63	62	66
10番さん	教育、学習学習支援関係	990	64	65	75	59	61
11番さん	公務員（教員を除く）	910	63	66	71	56	62
12番さん	旅行	990	62	74	57	55	59
13番さん	飲食店・宿泊	945	62	68	65	53	63
14番さん	放送・広告・出版・マスコミ	930	62	61	64	62	61
15番さん	コンサル・会計・法律関連	990	61	55	69	61	62
16番さん	放送・広告・出版・マスコミ	975	61	60	58	61	63
17番さん	教育、学習学習支援関係	990	60	60	60	57	62
18番さん	情報処理、SI、ソフトウェア	930	60	54	67	61	62
19番さん	コンサル・会計・法律関連	910	60	57	64	64	56
20番さん	その他		60	60	73	53	55
21番さん	食品、医薬、化粧品	985	59	63	65	53	56
22番さん	卸売・小売業・商業（商社含む）	940	59	70	63	50	54
23番さん	教育、学習学習支援関係	940	59	65	62	55	54
24番さん	コンサル・会計・法律関連	925	59	62	61	56	59
25番さん	教育、学習学習支援関係	990	58	71	66	48	47
26番さん	食品、医薬、化粧品	985	58	62	55	57	58
27番さん	教育、学習学習支援関係	985	58	52	60	60	64
28番さん	教育、学習学習支援関係	965	58	60	60	56	58
29番さん	不動産	915	58	70	75	44	45
30番さん	教育、学習学習支援関係	905	58	66	63	48	58
31番さん	素材	850	58	51	69	63	51
32番さん	公務員（教員を除く）	795	58	60	61	54	60
33番さん	不動産	990	57	63	53	55	53
34番さん	その他	915	57	63	61	47	59
35番さん	情報処理、SI、ソフトウェア	855	57	61	63	48	56
36番さん	公務員（教員を除く）		57	57	67	51	55
37番さん	電気・電子機器		57	58	70	47	57
38番さん	建設	955	56	51	62	62	48
39番さん	素材	935	56	62	56	51	54
40番さん	その他製造	895	56	54	54	64	48
41番さん	その他製造	895	56	54	54	61	54
42番さん	公務員（教員を除く）	865	56	62	64	45	55
43番さん	公務員（教員を除く）	865	56	62	61	46	56
44番さん	その他	800	56	51	63	55	56
45番さん	金融・証券・保険	700	56	50	57	61	57

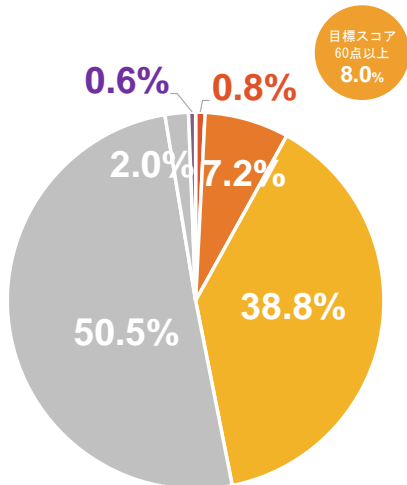
講座コース受験者スキル別スコア分析

「文章構文」英文を話す際に語句や文節を適切に把握して使うスキルを測定。
 「語彙」英文の中の単語を理解して使いこなせる能力。基本的にはリスニング力を示す。



文章構文

平均点:46.4点 目標スコア60点以上 日本人平均 41点



上級者

72～80点：幅広い語句や文脈を理解、使える。正確で複雑な文を常に発言できる

60～71点：様々な語句や文節を理解して使える。概ね性格で意味のある文を話せる

あと一步で上級者！

47～59点：多くの語句や文節を理解して使える。様々な意味のある文を話せる

31～46点：いくつかの語句や文脈を理解、使える。意味の通った簡単な文を話せる。

21～30点：簡単な語句や文でも英語で理解し発言することは難しい。

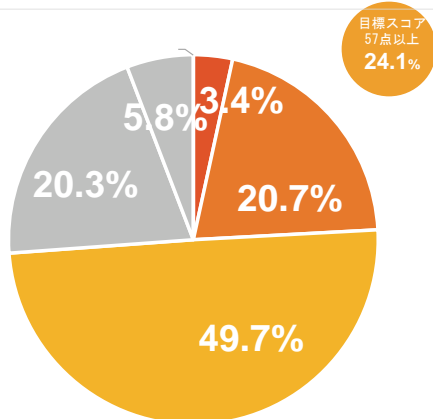
20点以下：正解の回数が少ない。回答の声が小さい。

文章構文は「会話において適切に単語や文節などを理解し、逐次的に発言できる」スキルが試される。講座コースの受験者は英語の構文力に強く、あと一步で上級者の47点～59点までを含めると、全体のほぼ半分弱が合格レベルにある。ただ、ビジネス英会話で正確な意思疎通を続けるにはやはり、60点以上の上級者レベルを目指したい。



語彙

平均点:49.1点 目標スコア57点以上 日本人平均 41点



上級者

69～80点：日常会話での単語を流暢かつ自然な口語体のなかで幅広く理解し使える。

57～68点：日常会話での単語の大部分を自然な口語体の中で理解し使える。

あと一步で上級者！

43～56点：はっきりと話されれば、日常会話で使われる単語を理解し使える。

33～42点：簡単ではっきり話されれば、限られた基礎的な英単語を理解できる。

21～32点：非常に基本的な単語をゆっくりと話された場合でしか理解できない。

20点以下：正解がほとんどない。回答の声が小さすぎる。

「語彙」は主にリスニング力が試される。日本のビジネスパーソンの多くはTOEIC対策がしっかりしており、「語彙」スコアが高い。上級者レベルの57点以上は2割弱。ほぼ基礎的なスキルがある43～56点を含めれば、6割程度となる。ビジネス英語ではリスニング力は最も重要とされる。相手の言っていることがわからなければ、コミュニケーションが成り立たないからだ。

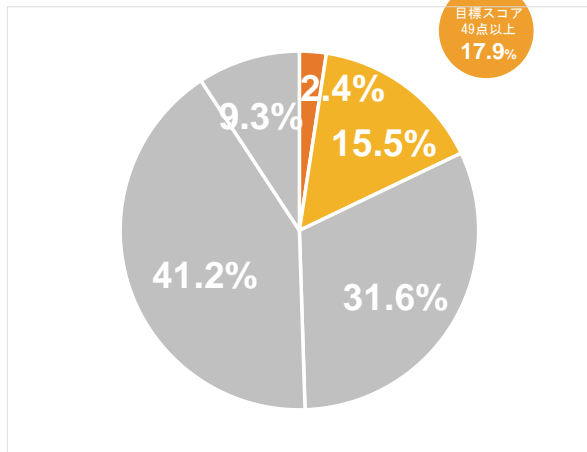
講座コース受験者スキル別スコア分析

「流暢さ」文章を復唱する中でのリズム、テンポの良さを判定。
「発音」子音や母音を発音し、アクセントをつける能力を測定。



流暢さ

平均点:39.5点 目標スコア49点以上 日本人平均点 36点



上級者

75～80点：ネイティブのようなリズム、語句の切れ目、タイミングで話せる。

62～74点：全体的にリズムよく話せる。語句の切れ目も適切。

あと一步で上級者！

49～61点：語句の切れ目などが不適切なこともあるが、ある程度リズムよく話せる。

39～48点：複数の単語をつなげられることもあるが、途切れ途切れに話す傾向にある。頻繁にポーズがあり、語句がつかまらない。

28～38点：不適切な区切りやリズムが多く、言い淀みや言い誤りも目立つ。発音は途切れ途切れで、明らかに流暢ではない。

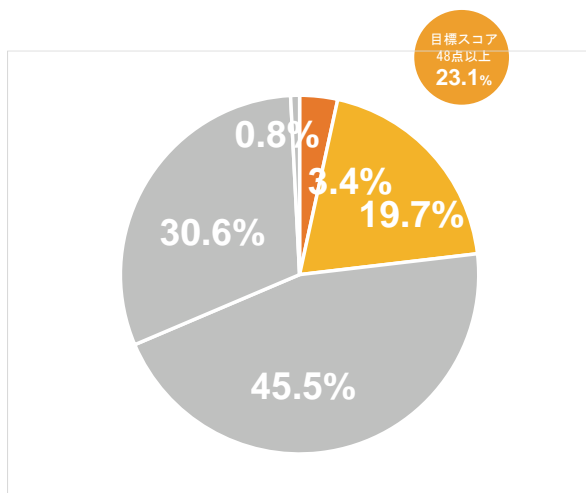
20～27点：ゆっくりと苦労しながら話す。躊躇や言い誤り、長いポーズが目立つ。単語単位で話すことが多く、単語や語句の自然な境目がない。

「流暢さ」は日本のビジネスパーソンが最も苦手としている。英語スピーキングの訓練が不足しているために「流暢さ」スコアが低くなる。上級者といえる62点以上は講座コース497人のうち、たった3%程度（18人）に過ぎない。「不適切な区切りやリズムが多く」「発音は途切れ途切れ」という28点～38点が全体の4割を占める。



発音

平均点:42.1点 目標スコア48点以上 日本人平均 37点



上級者

75～80点：母音と子音の発音は明快で曖昧さがない。

61～74点：母音と子音の発音は明瞭。常用語の多くを正しく発音できる。

あと一步で上級者！

48～60点：発音は全体として明瞭だが、外国語訛りが分かりにくいこともある。

38～47点：一部の子音と母音の発音が不正確。外国語訛りに慣れないと分かりにくい。

25～37点：多くの子音と母音が不正確。聞き手はかなりの部分を理解できない。

20～24点：非英語的な発音発音が多い。聞き手は発音内容のほとんどを理解できない。

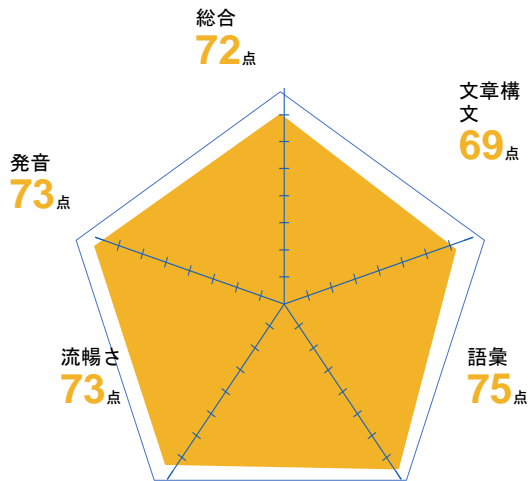
「発音」も日本のビジネスパーソンの弱点。上級者の61点以上は全体の4%程度（20人）に過ぎない。全体の7割程度は38～47点のレンジで、「外国語訛りに慣れないとわかりにくい」レベルだ。正確な発音は相手に対する印象を良くする。地道な訓練で着実にレベルアップしたい。

講座コース 主な上位成績者 4スキル別のスコアチャート分析

4スキルごとのスコアなどを詳細に分析してみます。

総合スコア 最高得点者

1番さん • 総合スコア72点



1番さんのチャート分析

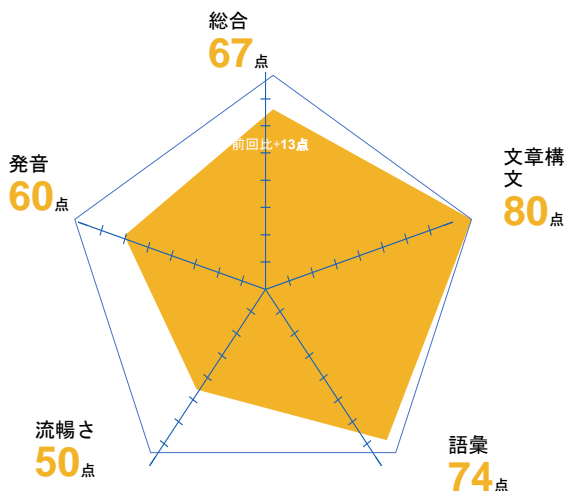
総合スコアで最高得点となる72点を獲得した1番さんはCEFRでは「C1」というネイティブレベルです。TOEICの申告スコアも980点です。日本経済新聞社がまとめているVERSANTの1万人データでも、C1は全体の2%弱に過ぎません。

1番さんは何よりも4スキルのバランスの良さが素晴らしいです。日本のビジネスパーソンが苦手とする「流暢さ」「発音」もそれぞれ73点です。このレベルは帰国子女か、長く英語圏での留学などをされた方であれば、なかなか到達できないスコアです。もちろん、海外留学生もおられます。

英語を使いビジネスでリーダーシップを発揮するために十分なレベルです。

総合スコア

3番さん • 総合スコア67点



3番さんのスコアチャート分析

3番さんも総合スコアは67点と素晴らしいスコアです。TOEICは満点の990点です。何よりも素晴らしいのは「文章構文」が満点の80点であることです。そしてリスニング力が試される「語彙」も74点と、ネイティブに近いスキルを持たれています。また、「発音」も60点と非常に高いです。

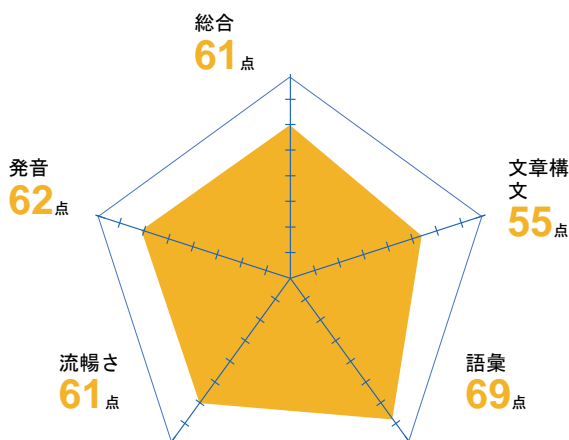
唯一の課題は今回のスコアでは「流暢さ」が50点と若干、見劣りしていることです。「流暢さ」は前述したように、日本のビジネスパーソンの苦手とするスキルです。ただ、3番さんのように突出した英語力があれば、比較的短期間で上級者レベルに到達できるはずです。

講座コース主な上位成績者 4スキル別のスコアチャート分析

4スキルごとのスコアなどを詳細に分析してみます。

総合スコア

15番さん • 総合スコア61点

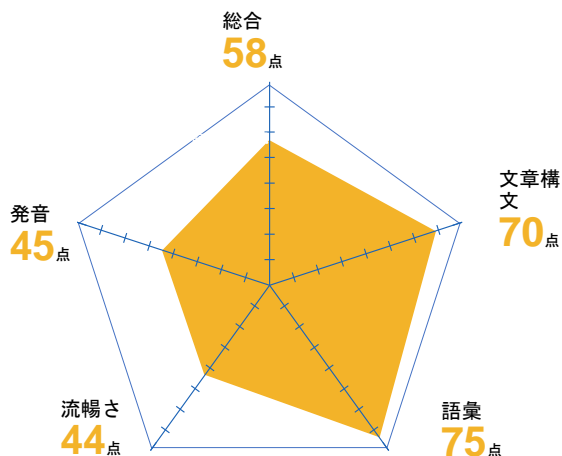


15番さんのスコアチャート分析

15番さんも3番さんと同じくTOEICは990点満点です。VERSANT総合スコアも61点であり、CEFRでは「B2」となります。4スキルともにバランスがよいです。リスニング力が試される「語彙」は69点とやはり高得点です。「流暢さ」「発音」ともに60点を超えており、バランスの良い実力者といえます。それゆえ、「文章構文」の強化に加え、「流暢さ」「発音」で、もうワンランクアップしたいところです。15番さんの実力があれば、仕事でネイティブとも十分に議論ができます。ネイティブに対して英語を使う時間をいかに増やしていけるかが重要になってきます。

総合スコア

29番さん • 総合スコア58点



29番さんのスコアチャート分析

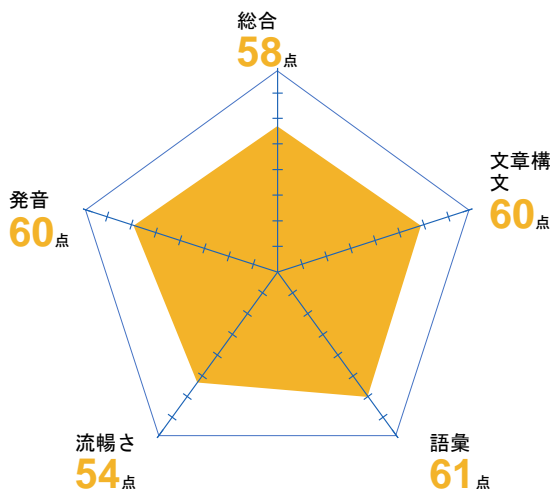
総合スコアで58点と日本人平均を20点上回る29番さんも実力者です。CEFRで「B2」です。「文章構文」と「語彙」はそれぞれ70点と、75点と、まさにネイティブレベルです。ただ、「流暢さ」「発音」の2スキルが現時点で40点台半ばであり、ここを強化する必要があります。「語彙」のスコアに対して、「流暢さ」や「発音」のスコアが30点程度低くなるケースは日本の英語上級者にはよくおられます。それは英語のアウトプットの時間が限られていたりするからです。富田式でスピーキングの自習メソッドを身に付けられれば、確実にスピーキング力も高められるはずです。

講座コース主な上位成績者 4スキル別のスコアチャート分析

4スキルごとのスコアなどを詳細に分析してみます。

総合スコア

32番さん • 総合スコア58点



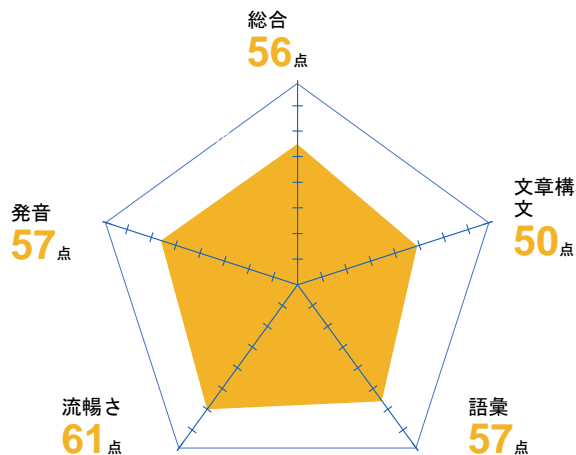
32番さんのスコアチャート分析

32番さんも、VERSANT総合スコアが58点と、「B2」レベルの上級者です。何よりも、「流暢さ」を除く3つのスキルが60点台と高く、安定しており、さらにレベルアップできる力があります。「流暢さ」も54点と、日本人平均よりもはるかに高いです。

32番さんは29番さんも同じですが、B2+を狙える実力があります。そのためにはやはり、「文章構文」や「語彙」を一段とレベルアップしたいところです。より多くネイティブの自然な口語に触れる機会を増やすことが重要です。「流暢さ」というスキルを磨くにはアウトプットの訓練を強化するしかありません。「富田式」でレベルアップに取り組み、訓練の成果をVERSANTスコアで把握して最適な学習を続ければ、確実にスキルを高めることができます。

総合スコア

45番さん • 総合スコア56点



45番さんのスコアチャート分析

45番さんは総合スコアが56点です。4スキルのバランスが良いです。何よりも日本のビジネスパーソンが苦手とする「流暢さ」が61点と非常に高いことが強みです。リスニング力の「語彙」も「発音」も57点とハイレベルです。

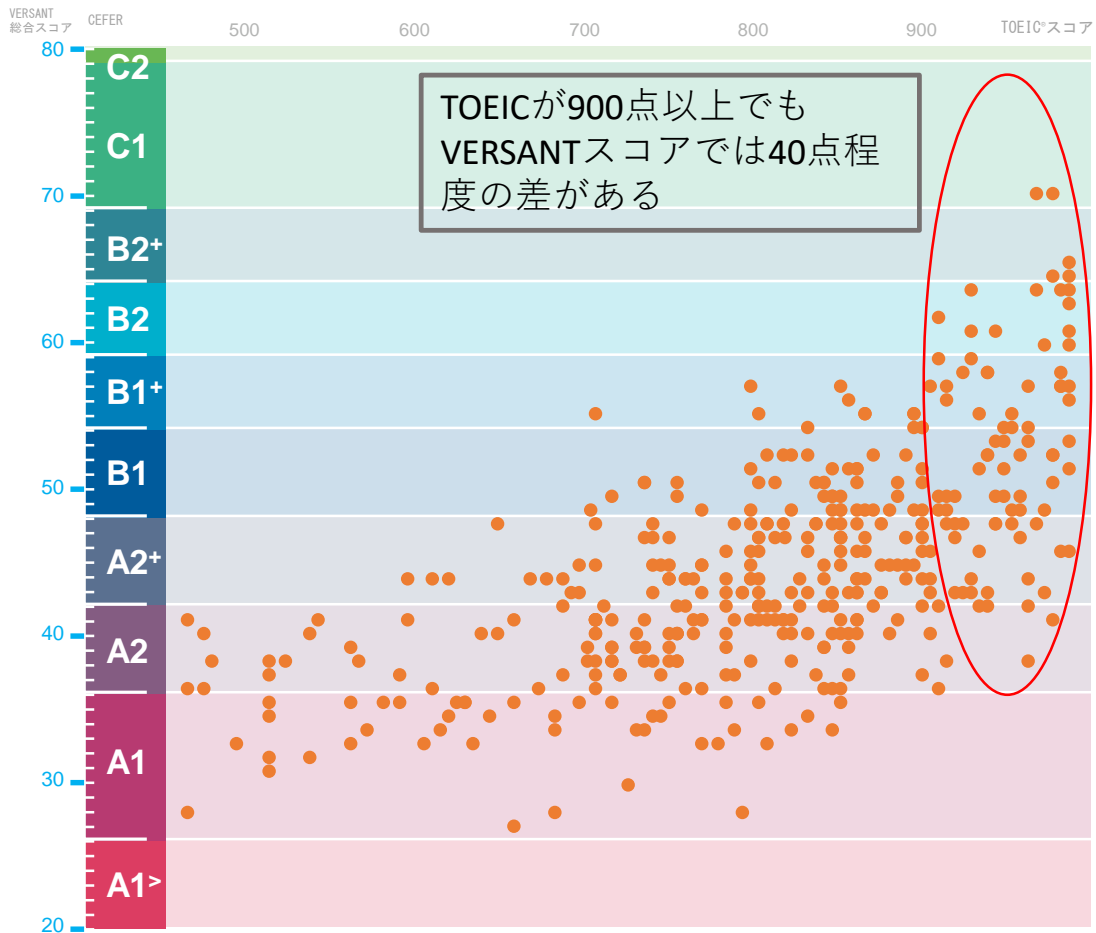
45番さんのTOEIC申告スコアは700点です。TOEIC700点台の総合スコア平均は42.1点です。45番さんははるかに上回っています。英語スピーキングを重点的に学ばれてきた成果だと思えます。ネイティブとの会話を増やすことだけでなく、自習時間も「富田式」でうまく活用し、レベルアップを目指してもらいたいです。

TOEIC®との相関分析

多くの企業が英語力評価基準に採用している、TOEIC® L&Rテスト。
VERSANTとの相関分析により、バランスの良いスキルアップが大切なことが分かります。

VERSANTとTOEIC®のスコア相関グラフ

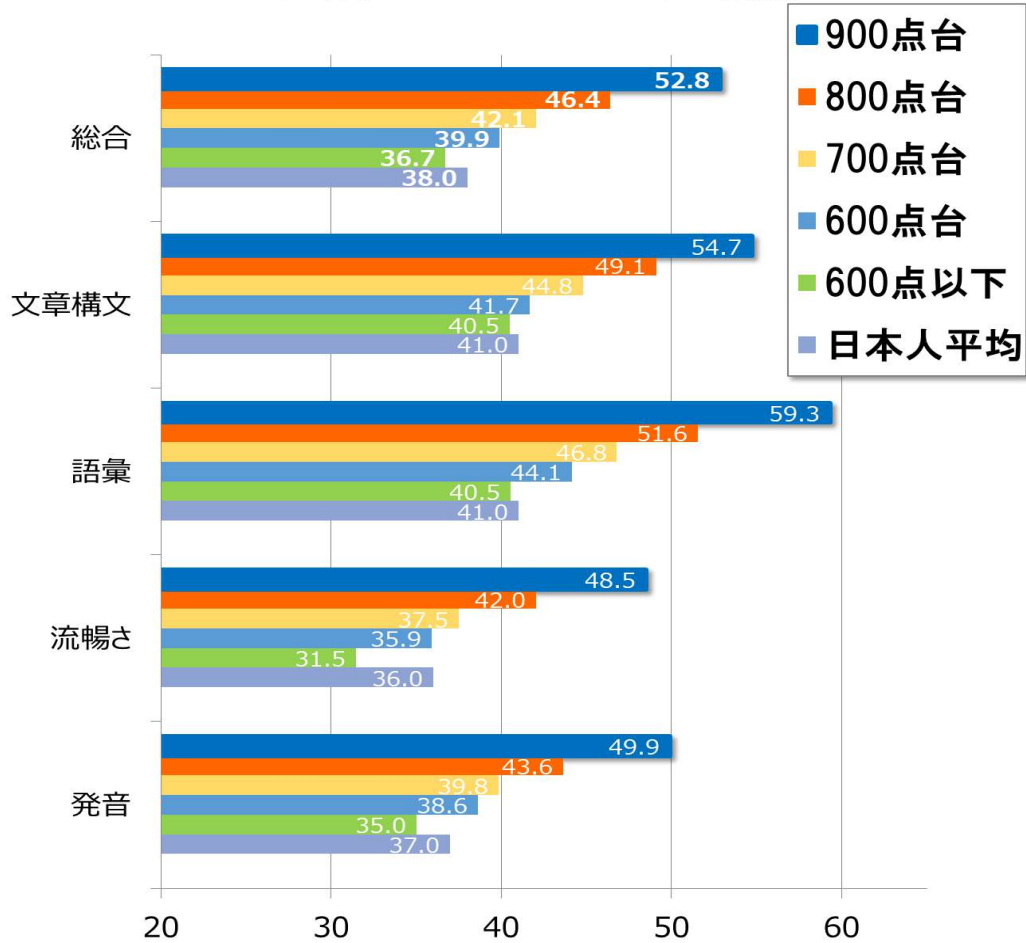
● VERSANT受験者



12月20日までに受験された方で、TOEICスコアを申告された726人の方を対象に両テストのスコア相関図を作成してみました。「英語の最上者」とされるTOEIC 900点台が157人の総合スコアは78点から36点まで42点の開きがあります。また、TOEIC 800点台は193人ですが、総合スコアでは71点から32点まで39点の開きがあります。TOEICは素晴らしいテストであり、英語力の幅広いスキルを高めるために重要です。ただ、日本のビジネスパーソンの弱みとされるスピーキング力を高めるために、VERSANTスコアをスキルアップの目安にしてほしいです。

TOEIC高得点でも「流暢さ」と「発音」が弱い スピーキングスキルの強化が課題！

TOEICスコア別 VERSANT平均点



VERSANT4指標のスコアをTOEICスコア別にグラフ化してみました。これまで開催した英語スピーキング・チャレンジでも同様の傾向がありましたが、TOEICが高ければ、VERSANTの総合スコアも高くなる傾向にあります。ただ、TOEICが900点台であっても、日本のビジネスパーソンが苦手とする「流暢さ」は平均スコアが48.5点です。「流暢さ」ではまず49点以上を目指したいのですが、それでも「ある程度テンポよく話せる」というレベルとされます。TOEIC800点台では「流暢さ」が42点となります。

ただ、スピーキングの訓練を強化していくことで着実にスキルはアップします。富田式講座ではスピーキング力を高める自習メソッドが学べます。ぜひ、実際のアウトプット訓練の時間を増やして、レベルアップを目指してもらいたいです。